

鯖江市役所 JK 課プロジェクト概要

資料No. 3

(1) 活動状況

(2019. 3. 31 現在)

項目	1 年目 2014 年度	2 年目 2015 年度	3 年目 2016 年度	4 年目 2017 年度	5 年目 2018 年度
メンバー数	13 人	16 人	27 人	47 人	45 人
学校別	(高専、県立 1) 高専 12 丹生 1	(高専、県立 5) 高専 8 武生商業 3 丹生 2 鯖江 1 足羽 1 武生/定時制 1	(高専、県立 5) 高専 15 武生商業 2 丹生 4 鯖江 2 丹南 3 武生/定時制 1	(高専、県立 6) 高専 27 武生商業 3 丹生 4 鯖江 2 丹南 7 武生/定時制 1 武生東 3	(高専、県立 5) 高専 30 武生商業 2 丹生 2 鯖江 1 丹南 7 武生東 3
学年別	3 年生 11 人 1 年生 2 人	2 年生 2 人 1 年生 14 人 ※2 年生は継続	3 年生 2 人 2 年生 10 人 1 年生 15 人 ※1 年全員新人	3 年生 6 人 2 年生 15 人 1 年生 26 人 ※1 年全員新人	3 年生 15 人 2 年生 21 人 1 年生 9 人 ※1 年 8、2 年 2 新人
スタートアップ	2014. 4. 14	2015. 5. 2	2016. 5. 23	2017. 5. 20	2018. 6. 19
イベント回数	22 イベント	21 イベント	19 イベント	20 イベント	22 イベント
活動日数	79 日	80 日	115 日	85 日	137 日
視察等件数	20	36	46	49	50

項目	1年目 2014年度	2年目 2015年度	3年目 2016年度	4年目 2017年度	5年目 2018年度
視察等人数	212	690	614	751	585
主な企画	マラソン給水ボランティア 図書館空席状況確認 アプリボタ開発 オリジナルスイーツ販売 福島っ子への化学実験 消防署コラボ 警察署コラボ めがね供養 ヒカピカプラン1, 2, 3 卒業イベント	2期生募集チラシ配り マラソン給水ボランティア オリジナルスイーツ販売 CATVリポーター体験 JK課インターンシップ自治研 めがね供養 ヒカピカプラン4, 5, 6 自衛隊コラボ JC3体験会 JK課とがちで語ろう (フューチャーセッション)	3期生募集チラシ配り マラソン給水ボランティア オリジナルスイーツ販売 ヒカピカプラン7, 8 交通安全県民運動チラシ配布 模擬投票「アナウンサーめがね総選挙」 全国高校生まちづくりサミット ながらスマホ防止広報活動 劇団近松出演	4期生募集チラシ配り マラソン給水ボランティア オリジナルスイーツ販売 山うにたこ焼き新作 メニューコラボ めがましライブ めがね供養 ヒカピカプラン9, 10 交通安全茶屋 24Hテレビ募金活動 IOFT出展 ローン新商品コラボ 農業女子 TOREYポンチョづくり	松堂庵呈茶サービス 東京大学講演 マラソン給水ボランティア めがましライブ めがね供養 オリジナルスイーツ開発販売 ヒカピカプラン11, 12, 13 交通安全茶屋 24Hテレビ募金活動 H2O LUSH 2 国体スイーツ販売 津田塾大学講演 さばえ映えMAP 横浜渋谷にてPR 劇団近松出演 電気通信大学講演 スポーツ庁長官対談

(2) JK 課誕生までの推移

<第1回おとな版地域活性化プランコンテスト提案>

- 2013.10 お題提供者募集・決定
- 2013.11 参加者募集・決定
- 2013.12 お題提供者と提案者による現地調査およびプランニング
- 2014.1.5 お題提供者による市民協働に関するヒアリング
- 2014.1.19 第1回おとな版地域活性化プランコンテスト開催
※若新氏のグループ(3人)が「JK課プロジェクト」を提案

<市対応>

- 2014.1.21 新年度予算市長査定(若手職員提案枠)
※参考/「2040年、地方消滅。」増田寛也(中央公論2013年12月号)
- 2014.2.8 市民主役条例推進委員会への説明
- 2014.2.19 定例記者会見にてプロジェクト発表(慶應義塾大学調査研究委託費50万円、若新氏東京⇄鯖江旅費50万円、JK課活動費0円)
- 2014.3.11 進化するやわらかい公共シンポジウム(150人参加)実施
パネラー:牧野百男氏、齋藤留美氏、若新雄純氏、コーディネーター:竹本拓治氏
主催:NPO法人丹南市民自治研究センター、共催:市民主役条例推進委員会
- 2014.3.26 福井県教育庁との対応調整
- 2014.3.30 保護者説明会
- 2014.4.14 スタートアップ記者会見

(3) 約5年が経過し、何が変化したのか

<誹謗中傷からのスタート>

- プロジェクト発表と同時に、1週間で全国から100件を超えるクレーム

(主な5パターン)

- 1 「JK」という言葉は隠語ではないか。それをなぜ、市役所が使うのか。
- 2 女子だけ限定して、男子は無視か。
- 3 高校生なんかに何ができるのか。
- 4 タダ働きさせるのか。
- 5 あの子は可愛いけど、この子は可愛くない。

※しかし、クレーム全体のほとんどは、東京・大阪・名古屋・福岡といった都市圏の方々に、鯖江市や福井県の人ほとんどいなかった。

<4年間の活動を通して、大きく変化>

まちや大人の変化

- 県教育庁（教育委員会）と学校の理解（参加高校2校 ⇒ 通算8校）
- 現代社会副読本2016の表紙抜擢（浜島書店／ニュービジョン現社50,000部発行）
- 家庭科資料集2017に活動内容掲載（東京書籍／スーパーライブビュー）
- 家庭科資料集2018に活動内容掲載（教育図書／家庭科ガイドブック）
- 全国の自治体若手職員40人がJK課にインターンシップ
- 全国のまちづくり活動を行っている51人の高校生（8団体）が集結しサミット開催
- るるぶ福井2016の福井最旬ニュースに記事掲載

- 2015年度ふるさとづくり大賞「総務大臣賞」受賞
- 全国から相次ぐ視察（週1団体…議会、自治体職員、民間企業・団体等）
- クラウドファンディング実施（1回目754,000円、2回目581,000円）
- 多世代展開（OC課誕生2014.6.1、SAN（男子高校生+JK課OG等）2015.4.1誕生）
- 横展開（豊橋市役所JK広報室2016.6.9、湖南市役所JK課2016.8.29、日野町JK課2017.11.1誕生）
- 商標登録（2018.6.8付）
- 2018年度国土交通省地域づくり表彰「全国地域づくり協議会会長賞」受賞
- メンバー増加（13人→16人→27人→47人→45人）

JK課卒業生の変化（成長）

- まちづくりが「他人ごと」から「自分ごと」へと変化。
- 1期生、2期生卒業生は19人中17人が地元に残り、内13人が、今もまちづくり活動を展開中。
 - ① 若者部会SANで男子高校生や大学生等の若者を巻き込んで活動
（お菓子なまちづくり、おもてなしプロジェクト等）⇒ 11人
 - ② 一般社団法人「ゆるパブリック」で社会人たちと活動（ゆるい食堂等）⇒ 4人（理事長1人、メンバー3人）
 - ③ 学生団体withで県内の大学生と活動（地域活性化プランコンテスト等）⇒ 1人（H29年度代表）

※JK課プロジェクトとは…

これまで市役所や公共サービスに直接関わることの少なかった女子高校生（JK）たちが自ら考え、やってみたいまちづくり活動を提案し、市役所をはじめ、メディアや市民団体等と連携して具現化する実験的な新しい市民協働推進プロジェクト。

（行政機関だけでなく、大学や市民団体、企業等からのオファーに基づいてJK課メンバーが活動するプロジェクトではない。）

鯖江市役所 JK 課 6 期生募集開始

鯖江市役所 JK 課 Sabae City Office JK section



若者が動けば大人が変わり、大人が変われば地域が動く

まちの女子高生が主役となった、まちづくり



若者の居場所と出番の創造



誹謗中傷が反響へ



他人ごとが自分ごとへ



多世代波及、全国横展開



■鯖江市役所 JK 課は、若い世代である高校生、特に女子のまちづくりへの参画が脆弱であることに鑑み、女子高生によるまちづくりチームを結成し、メンバー自らが企画した企画を地域の大人を巻き込みながら実践することを通じ、若者や女性など多様な世代が進んで行政参加を図っていく新たなモデル都市となることを目的として、2014年4月にスタートした市民協働プロジェクトです。